

2021・11 vol.38



原町本店
〒975-0026
南相馬市原町区栄町2-83
TEL: 0244-24-2929

いわき店
〒970-8026
いわき市平三倉69-8 第2地産ビル1F
TEL: 0246-85-5298

みなさまこんにちは！急に寒くなりましたね～！10月の上旬には夏日のような日もあったのに、秋の気配もなく一気に冬になってしまった感じです。

さて、11月15日といえば七五三ですが、どうしてこの日になったかは諸説あります。まず、江戸幕府三代将軍徳川家光の袴着の儀を行なった日という説もあれば、五代将軍綱吉の袴着の儀の日にとする説も。どちらにしても徳川家の袴着の儀の日が由来になっているという説が有力です。ではなぜ袴着の儀が11月15日なのか……とさかのぼっていけば、一説には旧暦の11月は収穫の月で縁起が良いのと、「収穫と子供の成長を感謝する」日と考えられたこと。もう一つ、この日は「鬼宿日(きしゆくにち)」といわれ、お釈迦様が生まれた日であり、最大の吉日といわれているからという説も。歴史の古い行事なので「諸説ある」ばかりでははっきりしたことはわかりませんが、昔の人が子供の成長を感謝する最良の日を選んだということなのでしょう。実はこの日は「きもの日」でもあるんです。昭和41年一般社団法人全日本きもの振興会によって制定されました。七五三のお参りに着物を着て祝っていたことに因み、11月15日を「きもの日」と制定しました。11月はきものを着るのに最高の季節かもしれませんね。

＜ たかはしきもの工房フィッティング会 ＞

9月22日から、いわき店において「たかはしきもの工房フィッティング会」を開催しました。アドバイザーさんの都合により急遽、代表の高橋和江さんにお越しいただき、実際にフィッティングしていただくという、とても貴重な時間となりました。



気仙沼にある着物の肌着メーカー「たかはしきもの工房」の代表・高橋和江さんにご来店いただきフィッティング会を開催しました。当初の予定では、アドバイザーさんをお願いしていたのですが、体調不良(コロナではありません)のため、急遽代打として高橋和江さんにご来店いただきました。和江さんは、七緒などの雑誌を始め、着物のお手入れや補整について多くの著書があり、実は呉服業界では知らない人はいないといっても過言ではないくらい、超有名なお方でいらっしゃいます。そんな和江さんが自らフィッティングをしてくださり、



お客様からは、驚きと喜びの声が！！
そうなんです！まず、これまで面倒だと思っていた補整が、簡単でしかも、きれいな着姿になるんです。
楽しくきれいだなんて、理想的ですよ？着物を着るのに時間もかからず楽になる優れものの肌着たち。
足りないところは補って、スッキリ見せたい部分はスッキリと！肌着以外にも、超便利な着付小物などが全て手に取れる機会でした！
来年も機会があれば開催したいと思いますので、今回ご来店いただけなかったお客様も次回はずいとも体験してください！
※11月には原町本店にて開催します！



フィッティング会
開催！

和装館よろづ屋 原町本店 「たかはしきもの工房フィッティング会」

11月10日(水)～11月13日(土) 9:30～18:00

10日(水)、11日(木)はアドバイザーの星さんが来店します！

フィッティング会は予約の方優先とさせていただきます。

ご予約は原町本店 0244-24-2929 までお願いします。

< よろづ屋 きものがたり〜 >

全国の紬や染めの産地のお話や、きものまつわるあれこれをご紹介しますコーナー

第11回目は、1000年以上の歴史を持つ伝統の意匠美・西陣織

西陣織とは、「多品種少量生産が特徴の京都(西陣)で生産される先染(さきぞめ)の紋織物」の総称です。昭和51年2月26日付で国の伝統的工芸品に指定されました。西陣の町は京都市の北西部にあり、「西陣」という地名ではなく、上京区、北区を中心に、おおよそ南は丸太町通、北は上賀茂、東は烏丸通、西は西大路通に囲まれたあたりを指します。平安時代からこの町では、織物が本格的に行われていました。宮廷の織物を担当していた織部司(おりべのつかさ)が織り手を集め、技術の高い織物を送り出したのが始まりと伝えられています。経錦や綴織をはじめとする様々な技法で織り出される文様は、他に類を見ない精妙さを誇ります。織屋によって製造工程が多少異なりますが、現在では12種類の品種が西陣織に指定されています。美しく艶やかに染められた色糸は、一本の帯に50色以上を使うこともあり、これが色鮮やかな西陣織として名を馳せる理由と言えます。また西陣織の文様は、古来から公家の装束や調度に用いられた有職文様や、室町時代に中国からもたらされた織物を見本に織ったもの、安土桃山時代の華麗な趣味から生まれた自由なものなど多岐にわたります。西陣織は「多品種少量」生産方式がとられているのも特徴です。明治期にジャガード機が導入されると進んで新しい技法を開発するなど、伝統を守りつつも躍進を続けています。

メガネマークは西陣織の証です！



西陣織の証紙は眼鏡の形に似ていることから、メガネマークとも呼ばれています。丸の下の番号は、証紙番号と言って、西陣織物同業組合が発足した昭和28年から、組合員である織屋の背番号としてつけられるようになりました。第一回に登録したのは、38社で、アイウエオ順に1番から38番までが決められました。現在では、2500番台ぐらいまでありますが、この番号は永久欠番制で、例えば3番の織屋さんが辞めた場合3番は誰も使えないということです。番号が若いということは、老舗の織屋であるという証になります。



経錦 袋帯
証紙番号353
高島織物
348,000円(税別)



袋帯
証紙番号93
勝山織物
580,000円(税別)



袋帯
証紙番号29
西陣まいづる
450,000円(税別)

体型別、着付けのコツ

ふくよかさん
のっぽさん
おやせさん

着物には、体形の悩みをカバーしてくれるさまざまな知恵が詰まっています。ふくよかでもやせていても、ほんの少しの工夫で美しい着姿になります。

～やせすぎていて帯がずれます～ 「ふっくら見せるようタオルで補整を」

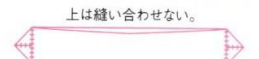
帯がずれるほどやせている場合は、胴回りをタオルで補整しましょう。自分で作る場合、図のようにタオルに紐をつける

<作り方>

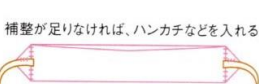
① タオルを縦半分に折る。



② 両端を図のように三角に折り、縫い合わせる。



③ 紐を縫いつける。



補整が足りなければ、ハンカチなどを入れる。

つける

他にも、ウエストのくびれなど腰回りの凹みは恐れずに埋めましょう。帯が安定しないと着姿にも影響します。タオルの他にも補整用の腰パッドなどで凹みをなくしましょう。

参考文献：着物の辞典 大久保信子監修/手ほどき七緒 十人十色の補正術



今月のおすすめ！

花Fu-SEN
とるるんミトン
780円(税込)

今回ご紹介するのは、よろづ屋オリジナルブランド「花Fu-SEN」の新商品「とるるんミトン」です。お着物についてしまったほこりやカビなどをやさしく取り除く「とるるんミトン」。軽くて、柔らかな感触と美しい光沢があるベルベットを使用し、着物はもちろんお洋服まで幅広く使えるほこり取り用のミトンです。片手がすっぽり入る使いやすいミトン型で、表面についてしまった白っぽいカビなども、優しくこするだけできれいに取れます。また、ブラックフォーマルなどのほこりが目立ちやすいお洋服などにも、生地を傷めることなく使用できます。なお、カビなどは、表面上がきれいになるだけでカビの菌は死滅しません。お着物の頑固なカビには別途カビ取りをおススメしています。また、こちらのミトンはベルベット素材で非常にデリケートな素材のため、水洗いはできませんのでご了承ください。

・・・若女将のつぶやき・・・

10月は、5年に一度ポーランドのワルシャワで開催される「ショパン国際ピアノコンクール」の沼にどっぷりと浸かり、寝不足の日々が続いておりました。第18回目となる今回は、予備予選を通過した84人中、日本人コンテスタント12人が出場。1次予選84名から3次予選まで戦い、最終本選に進めるのはおよそ10人(今回は12人)。注目していたピアニストの演奏は全て聴きたいとの思いから、公式YouTubeで配信されていたほぼ全ての演奏を聴きました。ファイナルに至っては、仮眠してから夜中に起き、朝4時過ぎまで観るという強硬手段でした(笑)配信ですが、ピアニストが演奏している今その瞬間に立ち会えて、喜びと感動でいっぱいでした！！

